

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100212		
法人名	(有)タックス		
事業所名	グループホーム花水月		
所在地	宮城県遠田郡美里町叔廻前22-3		
自己評価作成日	平成 29年 10月 5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 11月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年度は理念である「家族とともに」に特に力を入れている。家族面会時には日頃の様子などをお伝えし、また家族様の希望や意向を聞くように努めている。また、家族様と入居者様が同じ時間を過ごし、思い出を共有していただけるよう行事への参加の協力をお願いしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは入居者が住み慣れた地域の中で、家庭的な生活を送れるように、近所の方々と触れ合いを大切に、区のふれあい交流会やグラウンドゴルフ大会に参加している。今年入居者が準優勝に輝き全員で喜びを分かち合った。庭のおひさま広場で、日光浴や軽体操をしたり、音楽を聴きながらお茶を飲んだり昼食を食べている。恒例のタックス夏祭りには、おひさま広場に家族・近所の方々・ボランティア等30名位参加し歌や踊り等で楽しい一時を過ごした。ホームが鳴瀬川の堤防に近く、防災意識も強く運営推進会議等で災害時の対応について話し合い意欲的に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホーム花水月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の支援を通じ理念を実践する為に申し送りの中、会議などで振り返る機会を設け、いつでも目の届くところに掲示している。	ホームの理念(笑顔・元気を継続、家族とともに、地域・医療・行政と連携を)毎日の申し送りの時に振り返り確認をしている。今年は「家族とともに」を目標に、祭りや来訪の時、家族と一緒に過ごすように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行っている行事に近隣の方々に声を掛け招待している。また、地域行事にも誘いを受け参加している。広場で日光浴などをしていると近隣の方が立ち寄り声をかけてくれる。	区のふれあい交流会やグラウンドゴルフ大会に入居者が参加し、地域の方と交流を深めている。ホームの夏祭りに家族や地域住民(子供御輿)、ボランティアの方々の参加があり楽しい一時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について知って頂くために家族や地域の方に2ヶ月に1回グループホーム花水月ミニ便りを配布している。11月に中学生の職場体験を受け入れる予定になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの日々の取り組みの状況や対応を報告し理解してもらうと共に、話し合いや助言を頂いている。	包括の職員が毎回参加している。区長より地域の祭りや行事の情報を得て区の総会に出席した。水害時の対応やホームの避難訓練の参加等について意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、実情を把握して頂き、ご意見を頂く等協力関係を築いている。	入院している方の入居希望の相談や、災害時の避難場所の確保等の意見交換をしている。町の消防署より災害時の対応について、運営推進会議で講話を聞き災害意識を強めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などから身体拘束の知識を深め、職員は常に介助方法の話し合いを持ち、身体拘束をしないケアを心がけている。	勉強会を通し、行動を制限したり声のトーンや否定する言葉にならないように注意し、拘束のないケアに努めている。回覧板で近隣の方々にホームの入居者を見かけたら連絡をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などから高齢者虐待に知識を身につけ、虐待のない介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成しいつでも確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明に基づき、十分な説明の元に同意を得ている。また疑問や不安な事に対しても分かりやすく説明し理解してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者、ご家族とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くように心がけている。今年度、家族会を開催した。	家族より「楽しく過ごしてほしい」の声を尊重し、軽体操やおひさま広場で食事をしたり、花や野菜を見たり楽しみをもてるように支援している。オムツや日用品の要望はその都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは意見が言い合える関係になっている。日々の申し送りや会議で意見を出し合い、業務改善に繋げていけるように取り組んでいる。	常に現場の声に耳を傾けるように心掛けている。入居者の薬が無くなった時職員で共有出来るようにホワイトボードの設置等が反映された。資格取得への支援や子育て職員の勤務時間の配慮も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労務状況を把握し行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人に希望を確認しながら実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都合がつく限り交流するように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などに訪問し、情報収集すると共にご本人、ご家族の希望要望を聞き取りし関係作りにも努めている。又、入所前にホームの見学を可能な限りお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの困っている事、不安に思っている事など何でも気軽に話して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意思を確認した上で実行するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に生活を意識し、共に生活させて頂いている。又、職員だけではなく、利用者様同士も支え合いを大切にしている。支援をする側、される側という意識を持たず、お互いが協働し生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を意識的に作るように配慮し、家族関係が途切れないように取り組んでいる。ご家族と意見交換、情報を共有し、同じ思いで支えていけるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て馴染みの食堂や行きつけの美容院を利用している。友人、知人の方が面会に来られるときは、ご本人、ご家族に確認し面会して頂いている。	入居生活の長期化に伴い馴染みの関係が少なくなっている。兄弟と外食に行く方、お盆に娘さんの家に外泊する等一人ひとりが大切にきて来た馴染みの関係が途切れないように支援している。友人や孫の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は見守りの中、利用者様同士の関係性、性格等を把握し、利用者様同士が関わり、支え合える関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の意思を確認した上で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族、関係者の方から希望、意向を聴き取り意見を尊重しながら本人の些細な訴えを見逃す事のないよう気配りする。	一人ひとりの日々のケアから思いや意向を把握している。早く良くなって畑仕事をした、晩酌でビールを飲んだこと等傾聴している。把握困難な方は、表情や動向を把握し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族よりこれまでの生活状況、経歴や生活歴を理解した上での対応を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を常に把握して、受診記録ノート、介護記録等で変化を見逃すことのないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意向を確認して現状把握したうえで意見を聴取してサービスが適切であるかを検討する。月に1回モニタリングをして介護計画に反映する。	本人・家族の情報や医師の指示を参考に職員で話し合いケアプランを作成している。「穏やかに過ごして欲しい」の要望で本人が話す時の表情が良く笑顔が素適であり、この状態が維持できるようにした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、介護記録、受診記録ノートで利用者の状況を確認している。状況が変化した時は、再アセスメントを行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合わせ、その時の状況に合ったケアを実践している。ディサービスとの交流も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加等を取り入れ、地域の方と交流を持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期通院は家族が健康ノートを持参し受診している。結果は職員で共有している。同法人のデイサービスの看護師に相談や助言を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調、些細な表情の変化を見逃さないように早期発見に努めている。状態変化等の場合はかかりつけ医に電話し指示をもらっている。月に1回本人と受診してもらえるようにご家族様に協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い情報提供を行っている。退院時には退院後の対応や注意事項について細かに情報を頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りの指針を文書化し掲示しホームでの出来ない部分を説明している。	重度化や終末期の対応について指針を成文化している。ホームは医療や環境が厳しいことから重度化や終末期について、病院に入院することを説明し家族の同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり急変時に速やかに対応できるように備えている。AEDを設置し避難訓練時に使用方法の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(内1回は消防者立会い)避難訓練を近隣の方の協力のもと行っている。適切な避難誘導ができるように避難経路などを確保している。災害時について運営推進会議、家族会で話し合い協力体制を築いている。	年2回夜間想定も一緒に運営推進会議出席の方々が参加し実施している。誘導の時大声を出し、居室のドアを確実に閉め、安全かつ迅速に避難誘導の実施等を確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛け、言葉掛けを心がけ、プライバシーを損ねるような対応にならないように努力している。	名前は「さん」付けで呼んでいる。失禁時は、耳元でそっと声を掛ける等、周囲の方に気付かれないように尊厳やプライバシーに配慮している。外出時は姿見で身嗜みを整え、よそ行き姿で出掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話で、思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分で決定できるような場面を提供するように心がけている。表せない利用者は表情やしぐさから思いをくみ取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で身だしなみを整えて頂けるように姿見鏡台を置いている。身だしなみ、清潔感にも気をつけさり気なく支援している。散髪は理容師に訪して頂き、ご本人から直接話してもらい希望を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際は業者にお弁当を注文、ラーメン屋さんに出前することがある。可能な利用者には職員と一緒に畑の野菜収穫、ホールにて食材の皮むき等、手伝って頂いている。季節を感じられる食事を心がけている。	ホームの畑、家族や近所から頂いた旬の野菜を取り入れ調理している。年2回お菓子バイキングの実施やホットケーキ・タコ焼き・芋煮等職員と一緒に作り食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作る際にはバランス、彩に配慮し、個々に合わせた食事量、形態等把握し、食器や食べ方を工夫している。一人ひとりの食事、水分量を把握できるようにしている。年に1~2回実際に食べた献立表を町の栄養士に提出し専門的な意見を聞いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケア、義歯のケアを支援し状況に合わせた清潔保持に努めている。年1回、歯科定期検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努め、声掛け、誘導を行っている。	日中は自力で排泄1名、他の方は食事前に声かけし、歩行介助等でトイレ誘導している。夜間は、パッドの大きさ、ポータブル(2名)等、個別に対応し、安眠に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれている食材の利用、乳製品などを取り入れ便秘予防に努めている。必要に応じて病院から下剤等を処方してもらうなど個々に応じた支援を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックによる身体状況の把握、個々のその時の気分にも配慮している。入浴を嫌がる方には声掛けの方法を工夫したり、時間をずらして声掛けを行っている。	熱め・温めの湯、入浴剤等一人ひとりの希望を大切に、週2回位の入浴支援をしている。拒否の方は「風呂に入りましょう」と優しい声掛けや時間を置いたり職員を替える等工夫し入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況を把握し、体調や希望に応じて自由に休息して頂いている。居室の温湿度を管理し気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの受診記録ノートがあり、薬の変更等あった場合は記録し職員は必ず目を通すようにしている。薬ケースに薬票を貼りいつでも確認できるようにしており、服薬時は本人の飲み込みまで確認し飲み忘れのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意思、体調に考慮し洗濯物たたみ、洗濯物干し、居室掃除、草取り野菜の収穫など職員と共に行っている。また、カラオケ、散歩など楽しみにしていることを把握し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望、ご家族の協力を得ながら対応している。天候の良い季節には個々の状態に合わせ可能な限り外に出るように努めている。	天気の良い日は、庭のおひさま広場で、日光浴や軽体操をしたり、音楽を聴いたり、お茶を飲んだり、戸外で過ごす楽しさを共有している。ドライブで涌谷の花見や山の神社のアジサイ見物等季節を感じる外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対応していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいと言われた時は、職員が代行してかけ話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節感のある花や飾りをし居心地よく過ごせるように努めている。	リビングにボタンや芍薬の生花が置かれている。壁には行事の楽しそうな写真や折り紙で作った十五夜の貼り絵が飾られていた。温・湿度も適切である。テレビを見たりゲームをしたりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き自由に過ごして頂ける場を設け、ホールでは気の合った者同士が思い思いに過ごせるように、席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたもの、使いやすいものを可能な限り持って来て頂けるようにしている。ご本人の状況によりベッド、タンスの位置にも配慮している。	本人と職員と一緒に掃除してる居室に、衣装ケース・テレビ・ラジオや位牌が置かれている。家族の写真を貼り、温・湿度も適切である。テレビや新聞を見たり、自分のペースで過ごして居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように工夫している。		